

---

# めだかボックス 原初にして最強

アーチャー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

めだかボックス 原初にして最強

### 【Nコード】

N3105V

### 【作者名】

アーチャー

### 【あらすじ】

神のミスで死んだ主人公は、めだかボックスの世界でどう過ごし、どう変わって行くのか？

初投稿ですが頑張りますので、あたたかく見てやってください。

## 序章（前書き）

初めまして、アーチャーです。駄文かもしれませんが、読んでやってください。

## 序章

え、ただいま俺、 神倉一刀（かみくらいつとう）は、不思議な状態です。

周り一面真っ白だし、目の前に白髪のおっさん土下座してるし、さつきまで、道路を歩いてたはずなんだけど・・・

一刀 「え」とつまりあんたは、神様で、ここは、天界で、あなたのミスで俺は死んだと…それで土下座してたのか。」

神 「うむ、それであつとる。それにしても冷静じゃな。」

一刀 「特に未練は無いしね。それで？これから俺はどうなるんだ？やっぱり天国か地獄に行くのか？」

神 「いや、今回はワシのミスじゃからな、「めだかボックス」の世界に転生してもらおうと思う。そこなら、おぬしの能力があっても問題なかるう。このまま消えるのもよし、転生するもよしどうする？決めるのは、おぬしじゃ」

一刀 「そうだな・・・消えるのは、なんとなく嫌だし転生するよ。」

神が手をかざすと木製の扉が出て来た。

神 「なら、その扉をくぐれば行けるぞ。」

一  
刀

「そうか、じゃあ行ってくる。」

## 序章（後書き）

誤字、脱字があったりアドバイスがあったら、言ってください。特にアドバイスを待ってません。

## 主人公紹介

名前 ? ? かみくら神倉 いっとう一刀

### 容姿

赤の長髪で、黒眼、中性的な顔立ちなため、よく女の子と間違えられる。

### 異常

・覚醒

使用者の身体能力を普段の2 10倍にする能力。元々あった能力。

### 原初

オリジナル  
・原点

あらゆる異常、過負荷の原型にして最強の能力。

すべての異常、過負荷の発動、改変、無効にする能力。

また、異常、過負荷を創り出す事も出来る。神がくれた能力

### 過負荷

?????

### 設定

主人公の、親は、主人公が小学校3年の時交通事故で死別した。生まれてすぐに、異常「覚醒」が無意識に発動しており、人より、身体能力が高く、成長が異常に早く、頭も異常に良かったため周りから気持ち悪がられていてイジメられていたが、親は、受け入れてくれていた。18歳の時に、交通事故で死亡。

## 第二箱（前書き）

こんな感じで良いのかな？



## 第二箱

「一刀？？」うん。ここは俺の部屋？」

気が付くと、俺は、自分の部屋に居た。

「一刀？？」（あれ？神様にあつたのは、夢だったのか？）

ふと見渡すと、机の上に手紙が置いてあつた。

「一刀？？」え〜と？『この手紙を読んどるということは、無事に着いたようじゃな。家に関しては、生前と同じ感じじゃ。戸籍もあるし、お金もその通帳に振り込んである。』」

手紙と一緒に置いてあつた通帳を見てみた、

「一刀？？」何だこれ？いつたいいくつ0があるんだ？（こんなにあつたら遊んで暮らせるよ・・・）」

『それと、中学校も、手続きをしておいたぞ。制服などの荷物は、リビングにダンボールに入れて置いてある。その中のメモもじっくり読んでおいてくれ。ちゃんと年齢やら体型は、中学校の頃に戻してあるからの。』

「一刀？？」そう言えば何か目線が低いな。」

『それと、最後に、おぬしの、新しい能力を目覚めさせておいた。この手紙を読み終わったと同時に能力と、使い方を脳に直接送る。では、新しい人生を楽しめよ。』

手紙を読み終え捨てると、同時に直接脳に情報が激痛と共に流れてきた

「一刀？？」ガアアアアアアアアアア？！！（アタマが痛い？？アタマが割れそうだ？！！！！）」

やっと治まった・・・。

とりあえず、リビングに行つて、制服とかの整理をしよう。

リビングに着くと、机の上にダンボールが置いてあつた。

「一刀？？」この中に制服が入ってるのか？え〜と先ずメモは

つと・・・これかなになにに『来週、入学式じゃから、覚えとい  
くれ。ちなみに、学年は、めだか達と同じじゃ。』そうか、中学校  
少し楽しみだな。出来れば生徒会入っておきたいな。まあ、後は整  
理して寝るか。』

## 第二箱（後書き）

感想待ってます。

### 第三箱（前書き）

お久しぶりです。やっと書けました。

### 第三箱

こんにちは〜生徒会室に突然拉致された神倉一刀です。え？何で拉致されたかって？分かりませんよこつちが聞きたいですよ。

少しこの部屋居辛いです。何でかって？

横には、黒神真黒（変態）が「めだかちゃん可愛いよ〜」

とか言ってるし、机を挟んで正面には、安心院さんが、その横には、球磨川さん（何故か女性しかも結構美人）がニコニコしながらじつと見てくるんだもん。まあ横は気持ち悪いけど正面の二人は、美人だから、見られるのは嬉しいけど、恥ずかしいんだよね〜

と言っか何でこうなったんだ？

え〜と・・・たしか

？入学式の際に生徒会の話があった。

？帰ろうとしたら俺の教室に球磨川さんと安心院さんが来て生徒会室に拉致られる。

分かんね〜！！！！！！

何だ！！何故拉致されたんだ〜！！！！！！！！

球磨川さん「『ねえ君生徒会に入ってよ』」

俺「What?」

球磨川さん「『だから、生徒会に入ってよ』」

安心院さん「て言っか何で英語?」

安心院さんそこは気にしちやだめだよ

俺 「何故ですか？」

球磨川さん 「いやさ、この生徒会、会計がないんだよね」

「君を一目見た時気に入っちゃってさ、だから、君を入れようかなって思ってたさ。」

「それに君を入れたら面白そうだし」

「後、なじみちゃんからの推薦もあるしね」

俺 「そんな理由で入れていいのか？て言うか安心院さん、あなたと初対面ですよ？それなのに推薦もくそもあるんですか？」

安心院さん 「まあ気にしない、気にしない」

俺 「いや気にしますからね？」

安心院さん 「やっぱり君面白いね」

俺 「はあ、もう良いですよ。少し考えたいので明日またここに放課後来ます。」

球磨川さん 「うん、分かったよ、それじゃあ明日待ってるよ」

### 第三箱（後書き）

もう少し早く書けるようにしたいです。

ある程度書けるようになったら違う話が書きたいです。

そう言えば、めだかボックス途中までしか知らないな

どうしよう「――」

## 設定の変更について（前書き）

お久しぶりです。



## 設定の変更について

この小説を読み直してみて、修正しようと思う点があった為、ここに、書き出したいと思います。

1． 原点は、神が目覚めさせた能力としてましたが、元々あった能力にします。

2． 一刀が生徒会に誘われたのは、安心院さんが球磨川に強く一刀を推薦したからにします。

以上この2つです。また、最近学校のテストや、文化祭の準備等で時間が無かったため、投稿が遅くなると、思いますが、出来るだけ速く投稿します。

最後に、この小説が、原作に入ったら、新しい小説を書こうかなと考えてます。これで、投稿速度が遅くなると、思いますがよろしくお願いします。リリカルなのは、アマガミ、生徒会の一存、または、オリジナルのどれかで行こうと思います。

#### 第四箱（前書き）

やっと投稿出来ました。口調気を付けたり、話考えたりするのはやっぱり難しいです。

## 第四箱

side 一刃

どうも一刃です。

作者の書くスピードが遅いので、お久しぶりです。

まあ、こっちの世界では、1日しかたってないんですけどね・・・  
メタな発言は、これぐらいにして今僕は、生徒会に向かっています。  
もちろん、生徒会に入るためですよ？まあ今の内に、球磨川さんや、  
安心院さんに、関わっておいたほうがいいですよ。

さて、生徒会に着くまでに、皆さんにご報告があります。

なんとっ！善吉や、めだかさんと、友達になりました（v

）ブイ

それにしても、善吉の髪形全然似合ってたな、何気なしに  
その事言ったら、めだかさんも同意しちゃって善吉が、――  
つてなつてたな、ツとこんな事話したら生徒会に着きました。

「たのも？ あれ？安心院さんだけですか？」

「うん、そうだよ。今日は、みんな用事があるって。で？何の用だ  
い？」

「おっ、それは、嬉しいね、真黒君は、妹さんの写真ばかり見て  
るし、球磨川君は、ジャンプ読んでるし、阿久根君は、外見てボー

っとしてるし、.....

.....

君の、僕でも良く分からない能力も、貰えるかもしれないしね」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3105v/>

---

めだかボックス 原初にして最強

2011年12月11日01時54分発行